

松田区公民館で「シマdeシンポジウム」 松田の組踊×しまくとぅば

琉球王朝の時代に玉城朝薫によって創作された組踊。2010年にユネスコ無形文化遺産リストに登録され、悠久の歴史の中で生まれ、たゆみなく守り伝えられてきた沖縄の代表的な伝統芸能「組踊」は、2019年に上演300周年を迎えます。

松田区で「十五夜あしび」の中で上演される組踊「本部大主」は200年前に写本された、現存する中で最古の台本です。その伝統ある松田区の伝統文化をどのように子ども達に伝えていくのかを一緒に考えていくシンポジウムが2月11日(月)に開催されました。

沖縄県文化協会 仲田美加子 会長のあいさつの中で、昨年12月9日琉球新報に掲載された「豊年祭家族で楽しんだ」(3年 たはら まひろ)の作文を全文読まれ、これこそが地域の伝統を学校と連携を図りながら、伝承している松田区の姿を現しているとお話されました。

シンポジウムは2部構成になっており、第1部の最初に3年生8名(しまぶくろ りんざん・とうま かずは・はなしろ えいた・しまぶくろ はやら・しげた だいき・おおしろ かいり・てるきな はると・しんざと はやと)が「めーかた」を披露し、次に「こちゃまつり」で6年生が演じた「本部大主」の本部大主の登場場面と若按司が仇討ちの志気を高める場面の2場面をDVDで流しました。その後、松田区青年会がその2つの場面を実際に演じて見せてくれました。

2部では、パネリストの島袋澄夫氏(松田区芸能保存会 会長)、比嘉翼氏(松田区青年会 前会長)、コメンテーターの神谷厚吉氏(60年以上地域の芸能に携わる)、コーディネーターの崎山律子氏(フリージャーナリスト)が登壇し、それぞれの立場でお話しをなされました。

松田区の子ども達が「組踊」を初めとする松田区の伝統文化にもつ魅力と意味を知りそれを誇りにできること、さらに、「組踊」等の伝統文化に親しみ、将来にわたって、伝承・発展させることのできる環境づくりをどうしていくのかを考えるシンポジウムとなりました。



写真1 「めーかた」を指導してくれた當真さんと3年生



写真2 舞台の様子



写真3 映像で披露される6年生の「本部大主」



写真4 シンポジウムの様子